ＴＴＣ提案山行実施記録

2010 年 10 月 20 日　報告者：石川　(1/3)

1. 山行計画名	**黒部　下の廊下山行**
2. 目的	紅葉の盛期（？）の黒部峡谷を歩く　〔富山県〕
3. 天候/実施期日	天候：全行程晴　レベル　★★★　平成 22 年 10 月 10 日(日) ～10 月 13 日(水)
4. ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	CL／計画:　SL／記録:　会計／救護:　氏　名　削　除
5. 参加メンバ	氏　名　削　除　（申込／実施とも男性３名）

6. 費用

１人当たり：
39,450 円

		費用		
		単価	人数	計
交通費	さわやか信州号	6,000	3	18,000
	(事前集金済み)小計			18,000
会費収入	現地集金	34,650	3	103,950
<支出>				
交通費	黒部 トロリーバス	1,500	3	4,500
	黒部トロリーバス手回品代	210	1	210
	トロッコ電車	1,660	3	4,980
	富山地方鉄道	1,790	3	5,370
	富山地方バス	400	3	1,200
	ANA 航空券	12,800	3	38,400
	神奈川中央交通バス	1,500	3	4,500
	計			59,160
阿曽原小屋	キャンプ代	500	3	1,500
	入浴代	500	3	1,500
	計		3	3,000
宿泊	祖母谷温泉小屋	9,000	3	27,000
	計			27,000
食料費	共同食料調達(石川)	1,320	1	1,320
	共同食料調達(小島)	300	1	300
	阿曽原夕食ビール代	700	3	2,100
	阿曽原入浴ビール代	500		1,250
	祖母谷入浴ビール代	550		1,500
	富山　昼食代			4,380
	計			10,850
TTC カンパ				340
余剰返金		1,200	3	3,600
現地集金分支出合計		34,650	3	103,950

7. 行程

［参考ﾃﾞｰﾀ］

日昇／日没時間

(10/12、富山)

日の出 5：55

日の入 17:20

累積標高差登り

660m/

歩行距離約 30km

10/10（日）　10/11(月)

本厚木==新宿＝（ﾊﾞｽ）＝扇沢＝（ﾄﾛﾘｰ）＝黒部ダム――内蔵助平――休憩――新越沢合流点

21：00　22：30 発　5：30 7：30-　7：45 8：00-　9：20 9：25-　(0：15) -　10：47-

――黒部別山谷――泊竜峡――広河原前――十字峡――半月峡――東吊橋――仙人ﾀﾞﾑ――

11：35 11：45-　12：36- 13：10 13：15- 13：40-　14:40-　15:20 15:30- 15:34-

阿曾原キャンプ場（泊）

16：38

10/12（火）

阿曾原――ｵﾘｵ谷――大太鼓――志合谷ﾄﾝﾈﾙ――(昼食)――欅平駅――祖母谷温泉（泊）

8：00 発　9：35 9:45-　10:40-　10：55-　11:20 12:35- 14:20 14:37　15：27

10/13（水）

祖母谷温泉--欅平駅＝(ﾄﾛｯｺ電車)＝宇奈月＝(電車)＝富山＝(ﾊﾞｽ)＝空港＝(ANA)＝羽田＝(ﾊﾞｽ)＝

7：58 発　8：30 9：16-　10：38 11：03-　12:39 14:05- 14：30 15:15- 16：20 17：00-

厚木

18：05

8. 行程比較

	ガイドブック	実歩行時間	実所要時間	休憩時間	(2/3)
１日目	７時間	７時間５３分	８時間３８分	４５分	
２日目	５時間	５時間４５分	７時間２７分	１時間４２分	
３日目	１時間	３２分	(下り坂のため)		

8. 報告

10 日 20 時 30 分新宿発の夜行ﾊﾞｽさわやか信州号は期待に反し普通の観光ﾊﾞｽ仕立てで、運賃からすればﾘｸﾗｲﾆﾝｸﾞ 3 列ｼｰﾄを期待した我々の方が虫がいいのかもしれなかった。当然寝心地は悪い。行先は穂高・扇沢・白馬となっていて、ほぼ満席の乗客のうち穂高駅での下車は 3 人、扇沢は 10 人前後と圧倒的に白馬方面が多かった。薄暗い中着いた扇沢は水蒸気の中に居るようにｶﾞｽっていた。ここの周囲の山々はまだ紅葉には早いようでわずかにﾛｰﾀﾘｰの楓 1 本が色づくのみ。連休最終日であるにもかかわらずﾄﾛﾘｰﾊﾞｽは平常の運行となっており、始発 7 時 30 分と計画より 1 時間もｽﾞﾚがでた。明るくなるに従い次々と車が来て最初は改札付近にちらほらしかいなかった乗客が始発時には 5 台のﾄﾛﾘｰが満杯となった。わずか 15 分程度の乗車で黒四ﾀﾞﾑに着く。下車すると大方の観光客が行くﾀﾞﾑｻｲﾄとは反対方向に歩きｶﾗ沢方面の矢印のあるﾄﾝﾈﾙ枝道を曲がると直にﾀﾞﾑ右岸の下降路に出る。

8 時に最後尾から我々もｼﾞｸﾞｻﾞｸﾞの登山道を歩き出す。天気はまずまずのようで紅葉の遅れをｸﾞﾁってはﾊﾞﾁがあたる気がする。わずか 20 分程度で下降を終えﾀﾞﾑを左に見ながら対岸へ板橋を渡る。黒部川はこんな早くから観光放流でもなかろうがﾀﾞﾑからの放水のため水量がｺﾞｳｺﾞｳと豊富だ。内蔵助平までの道は多少のｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝはあるものの広々とした左岸を辿る。30 数年前に梯子谷乗越を越えて都合 2 回もここを往復したことがあったはずなのに全く景色の記憶が無い。大ﾀﾃｶﾞﾋﾞﾝも丸山東壁さえも言われてみなければ分からなかった。ここから両岸の傾斜がきつくなり流れを眼下に見ながらの道が続く。谷底には残雪が見え始め最近ｽﾉｰﾌﾞﾘｯｼﾞの崩壊した場所も目に入ってきた。別山谷と白竜峡の間にはそれぞれ崩壊した登山道を迂回するため丸太で拵えた梯子が左壁にΠの字に作られており、遥かに流れる谷底を足下に見ながらの登り降りはかなりｽﾘﾙがある。見返すと 10mは軽くあるんじゃないかと思う。仕事とはいえ整備によくもこんな丸太を運び作ったものだと感心する。地図上では水が飲めゆっくり休めそうな休憩場所はこれから十字峡まで見つかりそうもなかったので別山谷で早めの昼飯を取る（11：30）。同じﾊﾞｽで来た 4 人（女性 3 人男性 1 人）のｸﾞﾙｰﾌﾟも食事中だった。

そこを出発して 1 時間半位で十字峡に着く。急に 3 方を沢に囲まれた半島のような場所に出て、左右どちらにﾙｰﾄをとって良いやらまごつき自分は右を探りに行き、急な下りの踏跡を辿ると大きな岩の上に出、そこが十字峡所以の棒小屋沢と剣沢が左右から黒部本流へ合流する見学場所だった。2～3 枚写真を撮って急いで元の場所へ戻り左はと見ると下の道からすぐに剣沢を渡る吊り橋へ続いていた。半月峡のあたりから対岸の目線のちょっと上の位置に黒部発電所の開口部が 2 箇所見えてくる。あの岸壁の内部に発電所を作ったなんて信じられない気持ちだ。S 字峡を過ぎて東谷吊橋を渡ると無人らしき関西電力の建物があり、その脇の広い砂利道を進むとｺﾝｸﾘｰﾄ造りの雁木状の通路を潜り右曲すれば仙人谷ﾀﾞﾑだ。対岸に入り込む沢沿いに道が見える。仙人池への分岐らしい。ﾀﾞﾑの上を左岸へと渡る案内に従って進むと構内に導かれﾄﾛｯｺ道のﾄﾝﾈﾙを歩かされる。所々でむっとする熱気に包まれる。高熱燧道の名残である。ﾄﾝﾈﾙを出ると宿舎のﾋﾞﾙの脇に登山者用の通路が指示される。1 階の調理場らしい窓の下を通る。旨い食事に暖かい部屋と寝床を想像すると従業員が羨ましくなるが、険しい山奥での力仕事や冬の雪深さを思うと自分には耐えられないだろうなと思ってしまう。ここから 30 分は優に超す登りを強いられﾋﾟｰｸの中腹を右からぐるっと回ったその下に阿曽原の小屋の屋根が見えた（16：30）。7 時間超の歩きの後の一山越えはかなり体に堪える。小屋での今夜の料金支払いをＥさんに頼んでﾃﾝ場へと下る。

小屋からﾃﾝ場と露天風呂とは川床から 3 等分位の位置にあり何処へ行くにも登り下りが必要だ。小屋は今夜満員とのことだが幸いﾃﾝ場は川下の一番端ではあるけれど草地の温かそうな場所を確保できた。早速途中で採ったﾇﾒﾘｽｷﾞﾀｹとﾅﾗﾀｹそれに交換して手に入れたﾋﾗﾀｹを加えたﾁｹﾞ鍋の用意をする。水場とﾄｲﾚは渓谷沿いに細長い長方形をしたｷｬﾝﾌﾟ場の真中山側にあり使い勝手が良い。鍋が煮え始めた頃に小屋で買った缶ﾋﾞｰﾙで乾杯する。ﾛﾝｸﾞ缶で 700 円とのこと。飯も多少こげたが旨く炊けた。食後 19：30 からの男性入浴ﾀｲﾑまでﾃﾝﾄの中でｼｭﾗﾌに潜って酒を酌み交わす。露天風呂は 16：30 分から 1 時間

ごとに女性と男性と交代するｼｽﾃﾑだ（ただし、20：30 からは混浴）。2 人は自分　　(3/3)
の持ってきた梅酒を日本酒で割ると旨いとご満悦だったが自分はもう眠くてたまらなかった。揺り起こされて時間だからと風呂にむかう。懐電で照らしながら下る道は結構急だった。露天風呂は畳を 6 枚横に並べた位の広さで一方から 41～2 度の湯がもう一方から水がﾎｰｽで注ぎ込まれている。脇のｽﾉｺの上に服を脱いで水のﾎｰｽ付近に入れば無色透明な湯で温度も丁度いい。3 人であ～だこ～だ喋っていると周囲の人も話題に巻き込んで気がつくと 1 時間半近くも浸かっていた。つかの間だったが雲間から星座が見えた。またまた風呂上りのﾋﾞｰﾙを買いに小屋まで行く。21：30 過ぎ就寝。

ふと目が覚めたのが 6 時近く、それまで爆睡状態の自分だった。ﾃﾝ場はもう数張しか残っていなかった。皆 4 時頃から出発していったとのこと。天気も悪くなさそうだし、我々は 15 時過ぎに祖母谷温泉に着けばよいのでのんびりしたものだ。朝風呂に行く。当たり前だが誰も居ない。ゆっくり湯に浸る。爽快な気分である。風呂場の奥の山側にﾌﾞﾙｰｼｰﾄで覆われた開口部があり湯気が上がっている。高熱燧道の一部であるらしい。湯から上がって飯の支度をする。昨日の残りの鍋にこれまた残りの飯を入れて雑炊を作る。食事中に昨日昼飯時に言葉を交わした 4 人のﾊﾟｰﾃｨが通りかかる。彼らも祖母谷温泉泊まりとのこと。8 時にﾃﾝﾄを撤収し出発する。ｵﾘｵ谷を越える頃から対岸に奥鐘山の岩壁が見えてくる。両岸は狭まり谷は相当に深く感じる。ｼｱｲ谷は越えるのでなく沢を掘って作られた［の形のトンネルを 150m程くぐらなくてはならない。当然中は真っ暗で懐電なくしては進めない。壁は素掘りでごつごつし頭をぶつけ易く床は水が溜まっていて下手をすると靴がずぶ濡れになる。奥鐘西壁を正面に見る大ﾀﾞｲは沢床から下の廊下一番の標高のある岩壁をくり貫いて作られた隧道である（高さ 200m以上）。ところどころに出てくる丸太橋を渡るときは足下に渓流がもろに見える。壁に打ち込まれたﾎﾞﾙﾄに張られた太い針金から左手が離せない位緊張する。そこを過ぎて程なく小さな沢の出会いで昼飯にする。ﾒﾆｭはﾓﾁ入りｶﾚｰｳﾄﾞﾝだ。その前に夕べのﾁｹﾞ鍋に入れ忘れたﾄｳﾌを冷奴で食う。山で食べる物は何でも旨く感じるところが良い。

やがて欅平の駅のｱﾅｳﾝｽや列車の汽笛等が聞こえだすと水平道の終点に近づく。欅平へ 1.3ｋｍの看板から間も無く下降に入り 30 分程度で駅に着く。平日なのに観光客が結構居る。我々は各々ﾄｲﾚとﾋﾞｰﾙを済ませて祖母谷温泉へと向かう。黒部本流に架かる立派な広い橋を渡り祖母谷左岸のつま先上がりのｱｽﾌｧﾙﾄの道を歩く。ﾀﾞﾑで取水のためか水量は祖母谷の方が多いように思えた。途中にある名剣温泉が秘湯の宿を謳っているが湯元は我々が泊まる予定の祖母谷温泉と同じだ。小一時間歩いて長い登り坂のﾄﾝﾈﾙをくぐると祖父谷との合流点の右岸に祖母谷温泉はあった（15：30）。案内を請うと「先ほどからお待ちかねですよ。」と言われ、見れば玄関脇の食堂で例の 4 人ﾊﾟｰﾃｲが立山一升瓶を囲んで盛り上がっていた。案内された 4 畳位の部屋に荷物を置き、まずは風呂へ行く。渓流沿いの露天風呂は阿曽原のよりは広いものの硫黄分のためか床がぬるぬるする。幸いここではｼｬﾝﾌﾟｰや石鹸が使える。風呂から上がって洗濯機を使っているＫさんを残してこの上流の河原に湧く源泉を見に行く。何本もの温泉へのﾎｰｽが通っている先の両岸からはﾎﾞｺﾎﾞｺと熱湯と蒸気が上がっており岸の流れ込みを石で囲えば足湯位の温泉ができる。紅葉の頃の風情が楽しみな場所である。宿に帰って例のﾊﾟｰﾃｨに合流する。彼らは東京ﾊｲｷﾝｸﾞ協会（通称東ﾊｲ）の所属だそうで、家は東京や埼玉、神奈川とばらばらだそうな。一升空けた頃には何を話しているのか話題が飛び交って訳が分からなくなる。宿の食事はｷﾉｺ汁を期待していたのにｱｻﾘ汁だったりｺﾌﾞ締めｶｼﾞｷの刺身だったりと普通の宿の飯だった。同席のｿﾛの男性は白馬を越えて来て明日は我々とは逆ｺｰｽで黒部ﾀﾞﾑへ向かうとのこと、白馬山頂付近は秋酣だったとのこと、山道にｷﾉｺが一杯でていたとのこと、この情報は自分も何時か同じｺｰｽを同じ時期にと思わせるのに十分だった。部屋に戻ると梅酒がない。例のﾊﾟｰﾃｨの部屋に置いてきたからだ。酒を取り戻しに誰が行くかでもめていると女性が空ﾋﾞﾝを返しに来た。そこでＥさん持参のふぐ鰭酒をすべく部屋の中でﾊﾞｰﾅｰを取り出し熱燗を作って内輪で盛り上がる。就寝 21 時過ぎ

翌朝また露天風呂と源泉足湯に浸り 7 時の朝飯後宿を出発。昨夜遅くに雨の音がしていたが今朝は青空が広がり始めている。ﾘｰﾀﾞｰの日頃の行いのなせる業である。欅平発 9：16 のﾄﾛｯｺ電車は最初渓谷の左岸を走るが日の当たらないﾄﾝﾈﾙ内は肌寒かった。宇奈月駅、富山駅、と乗り継ぎ富山空港から ANA と予定通りのﾀｲﾑで厚木に 18：05 無事到着となった今回の山旅に参加協力してくれたＫ、Ｅ両氏に感謝したい。

以上